

小さいころ、怖いものの順番を「地震、雷、火事、おやじ」と親から教えられた。成長するに従って、おやじの怖さは感じなくなり、かえっておふくろのほうが怖い感じがした。

私は20代するとき、前記三つの怖さを経験した。地震は大学生のときだった。松代群発地震があり、毎日のように震度3〜4の揺れが長野市内を

襲い、大学の校舎がぐらぐら揺れて

壁に亀裂が走った。あるとき善光寺通りを歩いていると突然、揺れを感じて道路が波打った。生きた心地がしない日々が数カ月続いた。

火事は、火の不始末から家が全焼してしまった。持ち出すことができずしたのは位牌と布団数枚くらいだった。雷は、新築した家のテレビアンテナに落ちて、電化製品が全て駄目になってしまった。

二つの怖さを経験

幸い水害からは難を免れているが、いつ襲ってくるか分からないのが最近の雨の降り方ようだ。人ごとではないと思う。西日本を中心に広い範囲を襲った未曾有の豪雨は、2000人を超える犠牲者を出した。誠に哀悼の念に堪えない。ご冥福をお祈りする。

報道される映像から見えた一こまは、氾濫した川の中に大

量の木々が生え、水の流れを遮った

点差

こうさてん

のも一因ではないかと思われた。翻って、松本平を流れる川の中を見ると、やはり一面に木々が生い茂る所がある。万が一、同様の豪雨があったら、大きな水害が起きるのではないかと心配している。この際、怖いものの中に「水害」を入れてみたらどうだろうか。

(安曇野市穂高、荻原義重、74歳)